

第二回大学技術職員組織研究会（浜松会議）への参加報告

○須恵耕二^{A)}，上村実也^{B)}

^{A)}電気応用グループ

^{B)}企画・運営室

1 はじめに

静岡大学で開催された平成 30 年度大学技術職員組織研究会（浜松会議）に上村副技術部長と須恵の 2 名が参加したので報告する。

2 大学技術職員組織研究会

本研究会は、本研究会は国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構における技術職員の組織体制、組織運営、人員構成、組織間交流並びに技術の伝承など高等教育機関における技術支援体制の確立に貢献することを目的とし（同会規則第 2 条より引用）、技術部運営に関する諸問題を運営側・職員側の双方の視点で討論して参加者の技術組織運営に関する知見と指針を得るべく立ち上がったばかりの研究会である。

母体は、組織運営問題の知識に明るい全国の技術職員有志の会であったが、本会議を機に正式な組織研究会として創設し、全国への参加呼びかけが開始されることとなった。

2.1 概要

開催日時：平成 31 年 2 月 15 日（金）15 時開会～19 時閉会（予定）

検討内容：

- ・技術部組織に関する諸問題
- ・大学本部事務局との関係
- ・本研究会規約の検討
- ・その他

2.2 研究会における発表

本会議において、各大学の実情報告の一つとして上村実也副技術部長から、熊本大学の全学組織化の現時点での見通しについての報告があった。熊本大学の技術職員全学組織化は全国的にみるとやや遅れての始動となったことから、先行で全学組織化を実現している幾つかの大学の参加者より、全学組織化に向けての重要な視点や取組目標などについて貴重な情報提供や示唆があった。

本会議の母体である「有志の会」は、単なる有志ではなく文部科学省研究開発基盤部会に全国大学の技術職員の現状について報告をする有識者会として活動しており、実際にこの部会会議で審議に附されるための検討資料等の提出も行っている。今回の会議では、最新の情報として技術職員のキャリアパスについて文部科学省で会議に附された資料（公開されているもの）も配布される等、本学の全学技術組織化に向けて極めて重要となる、全国の動きについての知見を得ることができた。

また、主要な議題検討の後の話題提供として、須恵技術専門職員から「技術職員の開発成果普及と社会貢献ものづくり教育」と題し、盲学校教育支援と学生サークルの指導、外部資金の活用などの取り組み手法について報告を行った。全国的にも稀有な取組みで、技術職員の働きの事例として好意的な受け止めであった。

3 まとめ

工学部技術部は、全国に先駆ける技術組織として創設され、変革の波の中で組織力を発揮し新しい分野の仕事を切り開いてきたが、全国の全学技術組織化の流れにあっては遅れた感がある。この度、全学組織化の正式な動きが始まっているが、全学組織化となった場合の職長級の職員にあっては、組織運営の様々なノウハウ・知識を自ら集めることも必要となってくる。

本研究会が提供する話題には、特に全国の動きおよび国の動きの情報を知り、意見を交わせる場として他では得難い内容・知見が含まれていた。他の技術分野の研究会とは趣を異にするものの、様々な研究会で開会式前に技術組織シンポジウムが開かれていることから、どの大学も技術組織については関心が高く、また実働上での課題も多いことが分かる。

本研究会はそれらについて、高度な知識と経験から示唆が得られるものであり、全学技術組織化の実現にあっても今後も定期的な参加と情報収集が必要であると感じた。